

多賀



春号

No.57

平成29年3月1日発行



四月から九月の祭事暦

四月

- 御使殿大御供式 四月 十六日(日)
- 馬頭人大御供式 四月 十八日(火)
- 宵宮祭 四月二十一日(金)

●古例大祭

四月二十二日(土)

- 後宴祭 四月二十三日(日)
- 昭和祭 四月二十九日(土)

五月

- 傘寿薙寿祭 五月 十一日(木)
- 金婚薙寿祭 五月 二十日(土)

六月

- 御田植祭 六月 四日(日)
- 六月古例祭 六月 三十日(金)
- 夏越大祓式 六月 三十日(金)

七月

- 九月頭人差定式 七月 一日(土)

八月

- 万灯祭 八月三・四・五日(木・金・土)

九月

- 九月古例祭 九月 九日(土)
- 拔穂祭 九月二十四日(日)
- 池坊献華式 九月二十七日(水)
- 講社大祭 九月二十八日(木)

諸祭

- 御日供祭 毎日午前七時より
- おついたち参り 元日を除く毎月一日の午前七時より
- 月次祭 元日を除く毎月一日・十五日・二十八日



多賀大社

祭

まつり

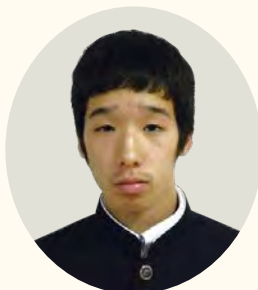


馬頭人

こばやしん じろう
小林新治郎 氏

昭和10年10月10生まれ（81歳）

- ・住所 犬上郡多賀町大杉
- ・現職 小林製材所 代表
- ・略歴 元多賀町商工会会長
元多賀町議会議長

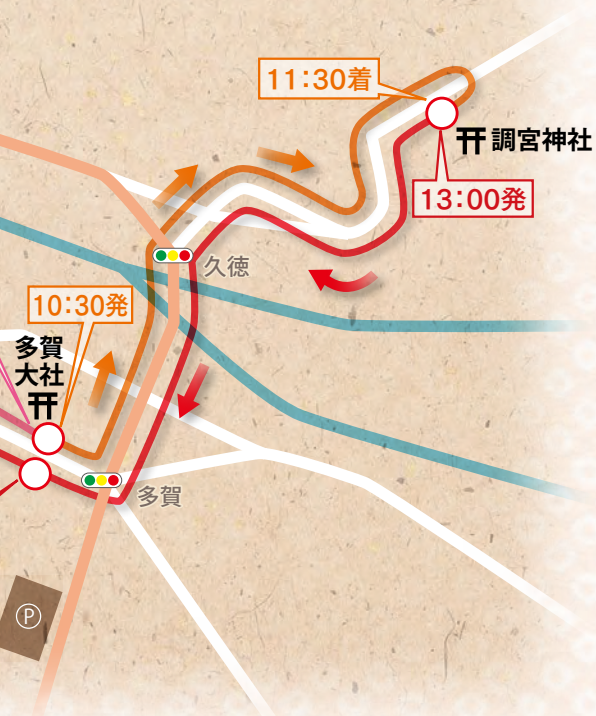


御使殿

たなか じゅんぺい
田中 隼平 氏

平成12年2月24生まれ（17歳）

- ・住所 犬上郡多賀町多賀
- ・彦根翔陽高等学校2年生（3月1日現在）



午前八時三十分 本殿祭
午前十時三十分 本社出発
午前十一時三十分 調宮神社に到着
午後一時 調宮神社を出発
午後二時 本社前を通過
（馬頭人・御使殿合流）
午後二時三十分 尼子のお旅所に到着
午後三時三十分 富ノ木渡し式
午後四時 尼子のお旅所出発
午後五時 本社到着 夕日の神事

四月
二十二日

古例大

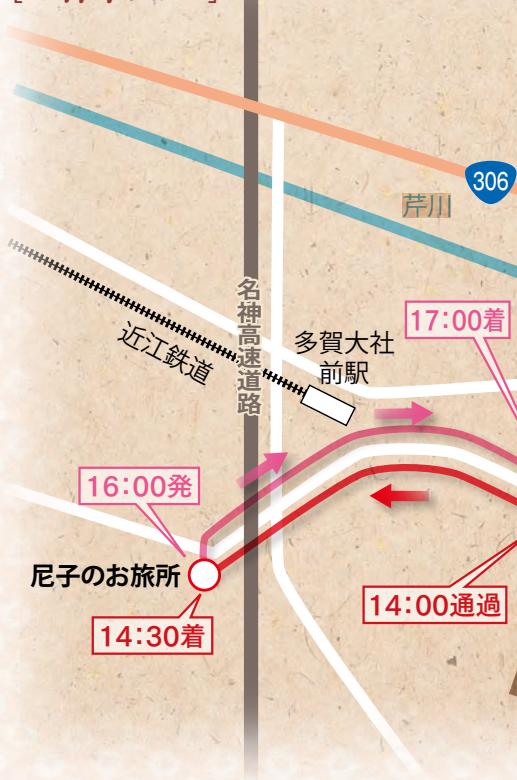
— 多 賀

湖国の春を彩る古例大祭が4月22日斎行されます。鎌倉時代の古記録にも現れる当社年中祭事の最重儀とされ、1月3日の差定式により「馬頭人」・「御使殿」が祭りの主宰として差し定められました。

今年の馬頭人は地元多賀町より小林新治郎氏、御使殿は田中隼平氏こばやしん じろう たなか じゅんぺいがご奉仕されます。

当日は、騎馬供奉40数頭・神輿・鳳輦などご神幸行列が整えられ、総勢500名にも及ぶ「本渡り」は祭絵巻さながらに町内を練り歩きます。

[ご神幸MAP]



昭和十一年に築造された建物で
お多賀さんの春祭り「古例大祭」
に繰り出される、御神輿おみこし・御鳳輦ごほうけん
が奉安されています。

二基はいずれも昭和の初めに新
調されたものであるが、神輿につ
いては江戸時代（寛永年間）の鏡
が納められており、当時を再現し
て新調されたと思われます。

なお、二基共、平成の大造営に
併せて修繕が施されました。

祭礼調査報告

「お田植祭」

お田植祭は、毎年六月の第一日曜日に斎行されます。神事の主役は、総勢五十名ほどの早乙女で、「田植女」「田踊女」「あやめ」より構成され、氏子を始め豊年講の関係者が奉仕されます。

当日、早乙女はご本殿にて神苗を受け取った後、ご神田へ進み、田植歌と田植踊りに合わせ、一反（約十アール）の田に神苗を植えていきます。

ご神田の舞台上では、朝日豊年太鼓踊り（米原市）や尾張萬歳（愛知県）などの伝統芸能も奉納され、盛大に神事が斎行されます。お田植祭の始まりは定かではありませんが、安永四年（一七七五）の『多賀大社儀軌』には、にぎやかに行われる様子が記されていることから、すでに江戸時代には行われていたと考えられます。

また、『多賀信仰』（一九八六）によると、大正十一年（一九二二）六月に「再興」、昭和二十六年（一九五一）に「復興」とあり、幾度かの変遷を経て、現在もその歴史を刻み続けているのです。

（多賀町立文化財センター調査補助員 佐野 正晴）



◆ 多賀大社祭礼調査委員会

多賀大社の祭礼に関する調査報告を行い、その結果を今後のまちづくり事業に活用するため、平成二十八年に組織された。委員は、文化財に関する学識経験を有する者より構成される。

委員長 市川 秀之（滋賀県立大学）
副委員長 渡部 圭一（滋賀県立琵琶湖博物館）

横内 裕人（京都府立大学）
井上ひろ美（華頂短期大学）
梅田 千尋（京都女子大学）

事務局 多賀町教育委員会
多賀町立文化財センター

多賀大社の神仏習合と神仏分離 I

今回より、明治時代までの多賀大社における神仏習合と、それ以降の神仏分離について皇學館大学副学長 河野訓教授より寄稿を頂きましたので、ご紹介致します。



一 多賀大社の境内

昔ながらの味わい深い門前町を抜け、ひときわ賑わう多賀大社大鳥居から境内に入ると、反橋の向こうに落ち着いた神門が目に入る。

現在の多賀大社の境内は大正から昭和にかけて行われた御造営にあたり、①神聖、②神巖、③清巖、④清雅、⑤自由区域の五段階に分けて設計され、近代を代表する美しい配置をもつ神社建築である。これは明治以降、神仏分離により仏教的な建築物の撤去や社頭の建物の再建が無計画になされた反省によるものだという。その境内にも天文二十四年（一五五五）に寄進された梵鐘の懸る鐘楼が残され、元別当であった不動院の建物が奥書院として残されているなど、昔の神仏習合の形跡を見出すことは容易である。

皇學館大学副学長
河野 訓（かわの さとし）
昭和三十二年宮崎県生まれ。
東京大学大学院修了後、文化庁
宗務課を経て皇學館大学教授。
現在、同大学副学長。

二 多賀大社の御鎮座

多賀大社の御鎮座については、「伊耶那岐大神は、淡海の多賀に坐す」という『古事記』の記述から明らかである。『古事記』の異本や『日本書紀』には伊弉諾尊が国生み、神生みの神功を終えられ、「幽宮を淡路の洲に構り、寂然に長に隠れましき」と、淡路に幽宮を造られ、お鎮まりになられたともあるが、多賀大社の『多賀大社儀軌』『御鎮座之事』によれば、伊弉諾尊と伊弉册尊は、「久敷淡路洲に住たまひしかとも、事既に瀾満し給ふによつて、近江州犬上郡に降臨しまして多賀大社とあらはれ御座也」（『多賀大社叢書 記録篇一』所収）とあり、淡路の国に久しくお住まいになっていたが、神功が成し遂げられたので近江の国の犬上郡にご降臨なされて多賀大社にお鎮まりになられている、という。以来、伊耶那岐大神と伊耶那美大神への信仰は篤く、『延喜式』には「多何ノ神ノ社二座」とあり、神封を受けるこの地方の有力な神として古くから鎮座していたことがわかる。



神仏習合の名残を留める鐘楼

三 俊乗坊重源と寿命石

源平の争いのさなか、平清盛の子重衡によって南都が烏有に帰すと、俊乗坊重源は造東大寺大勧進職となり、その再建にあたることになった。重源の大変な働きもあって東大寺の大仏は再興され、文治元年（一一八五）に開眼法要が営まれた。重源は翌文治二年には伊勢に参宮し、大般若経六百巻を供養している。

先に引いた『多賀大社儀軌』によれば、大仏再建にあたり重源は寄る年波を心配する一方、東大寺の再建は神明の御加護なしには事は成就しえないと思い、先ず日本の国主たる伊勢の神宮に七日間、参籠して祈ったという。参籠の成満する暁、「寿命の祈願は多可大社へ申すべし」という神宮の御示現を受け、日の若宮、すなわち多賀大社に参詣した。ご神前で祈っていると、神殿から葉っぱが一枚風にふかれて上人の前に落ちてきた。取ってご覧になると、その葉には「菴」という文字の形の虫食いがあつた。



「菴」という文字は「十」「二つ（++）」と「延」と書くから、重源はこれからさらに二十年の寿命をお与えくださったと、歡喜の思いでその木の葉を頂戴して笈に納めて帰途についたという。多賀大社の境内にある「寿命石」はこのエピソードに由来するもので、今も願いごとの書かれた白石がそこには供えられている。

四 別当不動院

中世には多賀社も日本の他の神社同様、神仏習合の様相を呈するようになる。

長祿三年（一四五九）には多賀社にも神社に奉仕する僧（社僧）がいたようであり、明応三年（一四九四）には近江国守佐々木（六角）高頼が護摩堂一宇、不動坊舎一棟を建立させている。護摩堂も不動坊舎も何れも仏教に關係の深い建物で、十五世紀の終わりには多賀境内に仏教の建物が建立されていたことがわかる。

室町時代の後期の多賀社には、諸国に出かけて多賀信仰を広めた坊人^{ぼうにん}といわれる人々がいた。伊勢神宮などの御師などと同じく、諸国に講を作り、講をたずねては牛王宝印などのお札を配り、ご祈禱を



重源ゆかりの寿命石

行って多賀社のご神徳を広めていた。多賀信仰は甲斐や信濃、尾張、美濃、伊勢、紀伊、備前など各地に広まり、多賀社の造営などの折にも重要な役割を果たした。

多賀社にあった仏教の坊のうち不動院は本願（社寺の修造を請負う集団のこと）の役割を担っていた。不動院は豊臣秀吉の頃から多賀社の神官を支配するようになり、大きな伽藍をもつ別当不動院となった。その様子は江戸時代に作成されたと推定される多賀社参詣曼荼羅で、それより以前の参詣曼荼羅よりも大きく描かれていることから確認できる。

（以下、次号に続く）



江戸時代の参詣曼荼羅

多賀 今昔物語

写真を通して、今と昔のお多賀さんの移り変わりをご紹介します。

神門及び太閤橋

昔



〔39〕 Taiga Shrine Ōmi. 橋及門正 社大賀多江近

今



太閤橋に足を掛ける丸太が存在しないことが分かります。
神様だけが通る橋であったのでしょう。

二の鳥居・西門

昔



居鳥ノ二 (社神賀多江近)

今



鳥居の場所が門前通りに位置していたことが分かります。
現在は境内に移築され、西参道の入り口として参拝者をお迎えしています。

※昔の資料は、昭和初期に作成された絵葉書

雪の無いお正月

「そちらは積もっていますか？」
冬の季節になると問合せの電話が殺到します。
多賀のお正月と言えば「雪」といった印象を持つ方も多いのではないのでしょうか？



しかし、今年は二年続きの雪の無いお正月を迎える事が出来ました。
長年奉職している職員も二年続きは記憶にないそうです。

参拝者も職員も雪が無い事が何よりで、正月三が日は四十万人とも言われる参拝者で大いに賑いました。



戌の日参り

戌いぬの日に神社へ参拝し、安産祈願をするのは、犬のお産が軽く多産であることから、これにあやからうとする古くからの風習です。

当社では、妊婦さんがご使用いただく腹帯に直接ご朱印を押し、ご祈願を申し上げておりますので是非ご持参下さい。
ご祈禱は戌の日以外でも毎日奉仕しております。(予約不要)
ご家族お揃いでの参りをお待ちしております。



●戌の日（平成29年3月～8月）

3月	12日(日)・24日(金)
4月	5日(水)・17日(月)・29日(土)
5月	11日(木)・23日(火)
6月	4日(日)・16日(金)・28日(水)
7月	10日(月)・22日(土)
8月	3日(木)・15日(火)・27日(日)

金婚筵寿祭のご案内

結婚五十年をお迎えになったご夫婦——
お互いへの感謝とご長寿を感謝する金婚筵寿祭を本年は五月二十日(土)に執り行います。

昭和四十三年(もしくは四十二年)にご結婚された方が対象になりますので、ご参列ご希望の方はご連絡下さい。ご案内状をご送付申し上げます。

TEL 〇七四九(四八)一一〇一
えんじゅさい
筵寿祭係まで



むすびの箱

正面賽銭箱横に「むすびの箱」があることをご存知でしょうか？

これは、ご参拝記録を書き留めて頂き、大神様とのご縁をより一層深めてもらうためのものです。五年前から設置され、約三万人近くの参拝者のご縁を結んでおられます。

遠方の方も多くみられ、関東方面の参拝者も増えています。

是非、皆様も大神様との一層のご縁をお結び下さい。



節分祭

鬼は外!
福は内!

二月三日、恒例の節分祭が斎行されました。
還暦の年男・年女二〇一名が特設舞台より
晴々と福豆・福餅撒きをご奉仕されました。
春待ち遠しい境内は福を求める参拝者で賑わいました。

奉仕者ご芳名(順不同・敬称略)

◆愛荘町

小泉 勝敬

上林 豊美

北村 豊子

吉岡 清美

玉木 正生

藤森 政次

西出 紀子

◆甲良町

尾本 喜吉

◆近江八幡市

島上 豊

深井 幸一

南 善昭

中江 吉治

辻 正隆

垣見 哲夫

川部 善明

成田 忠夫

坂本 信之

畑 与史伸

溝井 秀次

谷口喜太郎

谷口 房美

◆甲賀市

藤橋 忠史

福井 治夫

西宮 久雄

原田千加子

家森 康和

◆多賀町

野村 仁

小井戸善光

神鳥 幹彦

小菅 邦彦

山本 巖

大久保喜久夫

◆知多市

加藤 順也

◆豊郷町

北川 貢次

北川 正恵

北川 高規

野村 治正

西山 康博

西山 康子

◆長浜市

高山甚一郎

富永 喜弘

本野 宇市

草野 隆

松崎 靖

宮部 長二

石光 文博

川並 薫

山田 昌宏

多賀 長人

多賀 輝実

多賀 健次

藤森 善弘

木原 邦彦

押谷 小助

北川 厚士

中島 基

清水 正人

河瀬 隆洋

千田 浩明

大塚耕太郎

川瀬 良次

中川 広実

川瀬 秀樹

落合 哲也

前川 勇治

岡田 豊彦

岡田 恵子

藤井 国宏

坂東 政博

清水 義康

中川 隆司

四塚 善弘

柴田 善成

柴田富美子

藤田 彦雄

長谷川 要

馬場 博行

橋本 善美

中川誠一郎

河瀬 均

杉山 佳弘

杉田 房一

北川 太

丸岡 昭浩

嶋崎 則子

伊藤 弘之

田嶋 孝志

岩崎 昌司

山口 善博

宮田 和憲

柳田 正文

山本 助幸

野洲 寿昭

雨森 秀隆

吉内 雅子

小林 彰

赤川 顕次

四居 雅生

中村 匡志

樋口 昌弘

那須 賢三

坂東 俊孝

◆東近江市

小沢 真

村林 清茂

澤 貢

澤 さとみ

村林 一寿

村林 都

井口 嘉久

小西 順二

富永 繁紀

中嶋 孝子

藤野 功

馬場 将博

元持 誠

元持 真弓

福原 康広

北川 忍

棚橋 勝道

馬場 完之

嶋津 茂昭

大野 修弘

山本 博

吉澤 郁一

久野 依子

藤澤久美子

清水 和子

坂田 彰

坂田千賀子

奥井 幸三

柚木記久雄

柚木 静恵

島田伊久三

島田 典子

竹村 直樹

山田 清広

山添 信男

川嶋 健市

石田 宣幸

若井 幸司

◆守山市

金森 昭彦

山田 秀幸

中野 利弘

園田 孝司

田中 義信

中野 孝男

松井 正幸

◆竜王町

島田伊久三

島田 典子

竹村 直樹

山田 清広

山添 信男

川嶋 健市

石田 宣幸

若井 幸司

◆栗東市

山田 秀幸

中野 利弘

園田 孝司

田中 義信

中野 孝男

松井 正幸



参集殿からのご案内



挙式・披露宴承り中

結婚式は、おふたりの
一生に一度の大切な日。
和やかなひとときを
多賀大社参集殿が
まごころを込めて
お手伝いさせていただきます。

お宮詣り・お祝いの食事会のご案内

お祝いの食事会はいかがですか。お宮詣り・人生節目のお詣りの後にお食事・記念写真等承っています。



会席膳 5,000円

※写真はイメージです



松華堂弁当 3,000円



お子様ランチ 1,500円

お祝い会席膳
5,000円より

お祝い松華堂弁当
3,000円

お子様ランチ
1,500円より

記念写真(六ッ切りサイズ)
1ポーズ 8,800円

要予約 お食事・記念写真

ご飲食につき、別途 税・サービス料
10%申し受けます

お問い合わせ

0749-48-1103 ※完全予約制(年中無休)詳しくはホームページをご覧ください。

多賀大社参集殿

検索

表紙写真／神あかり

昨年10月1日～11月30日の間、「神あかり」と題した多賀町の歴史遺産を光とアートで彩るライトアップが開催されました。

当社でも地域の特別委員会のメンバーが中心となり準備が進められました。

期間中は多くの参拝者が訪れ、光と闇の幽玄なお多賀さんを楽しみました。

この事業が今後の多賀町の魅力を再発見する足がかりとなる事を期待します。



人事

退職

【舞女兼事務員】賀治

麻衣子

(平成二十九年二月二十七日付)

夏越の大祓

六月三十日

湖国の夏の風物詩

万灯祭

八月三日～五日

※6月初旬、改めてご案内をお送りします。

多賀大社

〒522-0341 滋賀県犬上郡多賀町多賀604 tel.0749-48-1101 fax.0749-48-1105
HP <http://www.tagataisya.or.jp> E-mail info@tagataisya.or.jp

神仏霊場近江國一番